

(3) 二酸化窒素 (NO2)

二酸化窒素には、物質が高温で燃焼する時に燃料中の窒素分が酸化され生成されるフューエルNO_xと、空気中の窒素が酸化されて生成されるサーマルNO_xがある。また、土壌での微生物による窒素化合物の分解によって発生するものや、山火事等の自然現象で生成される窒素酸化物もあり、大気中では0.002～0.003ppm程度の濃度になる。

人為的な発生源は工場等の固定発生源だけでなく、自動車等の移動発生源からの排出が多いのが二酸化窒素の特徴である。特に、高圧で燃料を燃焼させる自動車エンジン（特にディーゼルエンジン）は高濃度の排出源であり、普通自動車を中心に排出濃度を低減した低公害車の開発が進んでおり、国による認定制度もある。

環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内、またはそれ以下であること

①二酸化窒素測定結果（令和4年度）

(ppm)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
東部総合庁舎	最高	0.052	0.027	0.024	0.019	0.018	0.039	0.038	0.036	0.034	0.040	0.044	0.025	0.052
	平均	0.006	0.005	0.004	0.003	0.003	0.006	0.007	0.011	0.010	0.010	0.010	0.007	0.006
愛鷹中学校	最高	0.035	0.031	0.027	0.026	0.027	0.020	0.027	0.031	0.031	0.032	0.038	0.036	0.038
	平均	0.008	0.007	0.005	0.004	0.005	0.006	0.009	0.010	0.011	0.011	0.011	0.009	0.008
金岡小学校	最高	0.033	0.025	0.028	0.021	0.020	0.028	0.030	0.030	0.032	0.032	0.038	0.032	0.038
	平均	0.008	0.007	0.006	0.005	0.005	0.007	0.009	0.012	0.013	0.013	0.012	0.009	0.009

※最高：各月の1時間値の最高値、平均：各月の日平均最高値

②二酸化窒素測定結果（令和4年度）

区分	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値	98%値評価による平均値が0.06ppmを超えた日数	環境基準の適否
	日	時間	ppm	ppm	日	%	日	%	ppm	日	適○ 否×
東部総合庁舎	308	7401	0.006	0.052	0	0.0	0	0.0	0.015	0	○
愛鷹中学校	364	8692	0.008	0.038	0	0.0	0	0.0	0.018	0	○
金岡小学校	363	8690	0.009	0.038	0	0.0	0	0.0	0.019	0	○

③二酸化窒素の経年変化（各年度の平均値）

(ppm)

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
東部総合庁舎	0.008	0.010	0.010	0.010	0.009	0.009	0.009	0.011	0.009	0.008	0.007	0.006	0.006
愛鷹中学校	0.014	0.014	0.014	0.013	0.014	0.012	0.012	0.011	0.010	0.010	0.009	0.009	0.008
金岡小学校	0.014	0.014	0.016	0.015	0.016	0.015	0.014	0.013	0.012	0.011	0.009	0.009	0.009

※H29年度から東部総合庁舎で測定（H28年度以前は勤労青少年ホーム）